

写真洗淨マニュアル 大川小・福地版

アースデイ東京タワー ボランティアセンター
協力:大森さん・みどりさん
(地元ボランティアスタッフ)

目次

- はじめに 3
- 全体の流れ 4
- カッティング 5
- 分類 7
- 洗浄・乾燥 9
- BCD補修 11
- Cスポンジ補修 .. 13
- 複写 15
- 合流 17
- 展示 19

はじめに

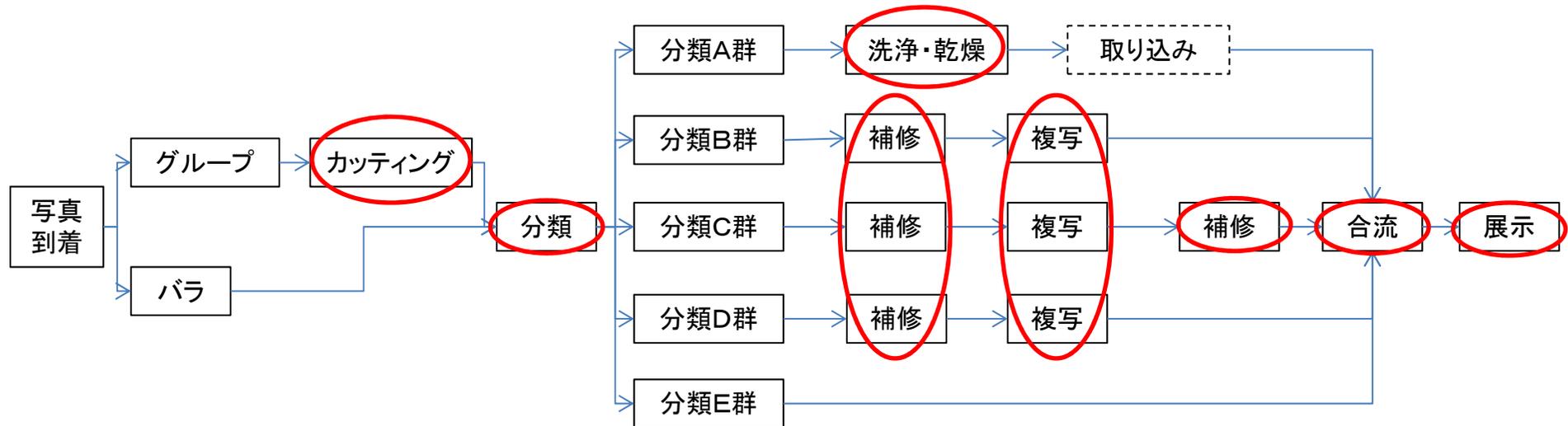
このマニュアルは、東日本震災の津波の被害を被った、宮城県石巻市の大川小学校近く、福地体育研修センターにて行われた写真の分類・洗浄・管理をマニュアル化したものです。

もちろん、もっと時間をかけて丁寧に、または、もっと速度を上げて簡略化もできますが、たまたま、福地においては、この速度と仕上げの質が、バランスがよかったということです。速度としては、約3か月、質としては、たとえ将来的に画が消えてしまおうとも、水で洗浄せず顔を残すこと、また、写真の修復に耐えることができるデータを取る事を条件としました。

写真総数、約4万枚、この前後の規模の現場であれば、多少、参考になるかもしれません。

尚、この写真洗浄・分類の方法の確立にあたり、地元ボランティアの大森さんとみどりさんに協力をいただき、被災者のみなさまの気持ちを常に意識しながら、作業効率を考えつつ、議論と試行錯誤を繰り返し作り上げてきました。大森さん、みどりさん、また活動にご協力いただきました関係者のみなさま、そして何よりご理解いただきあたたかく対応してくださった大川小学校学区お住いのみなさま、この場を借りて深く感謝させていただきます。

★全体の流れ



・主な8工程を経て、展示へ。

・難易度(要経験率)

分類 > BCD補修 > C補修 > A洗浄 > 展示 > 合流 > 複写 > カットイング

カッティング

【この後の分類の作業量軽減の為、アルバム本体から、まず、台紙を切り離し、次に、台紙から写真を一枚一枚取り出す作業。】



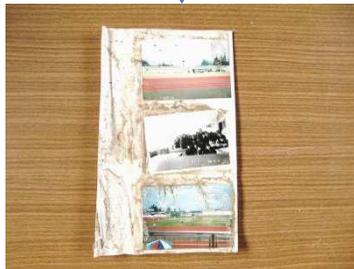
①アルバムの最初の状態



②開いて、表紙と台紙を切り離します



③切り離した状態



④台紙一枚



⑤台紙と写真一枚を切り離します。その際、フィルムがついてるものは、そのまま。



⑥小箱か封筒にまとめ、アルバム一冊分できあがり

ア

カッティング作業について・メモ

最初は、人手が足りない事もあり、分類作業と同じ工程でしたが、人数が充足するにつれて、経験がどうしても必要な、分類作業で詰まるようになりました。

・用意する道具

- ・カッター
- ・はさみ
- ・メモ
- ・小箱(封筒)
- ・洗濯バサミ

- ・合わせて表紙もきれいにする場合

- ・油性マジック
- ・養生テープ
- ・濡れタオル
- ・乾きタオル
- ・歯ブラシ 等

分類

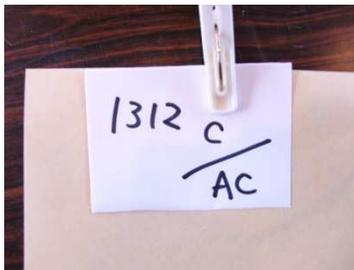
【写真は、アルバムでも、一枚一枚、これまでの保存状態が違うので、画を消さないように、水につけても良いもの、つけてはいけないもの等、それぞれの状態に応じて、分けていきます。根底にあるのは、所有者がその一枚の写真を探そうとした時、どういう状態が探しやすいか、望ましいか、です。最後に、採番、タグ付けも。】



①小箱や封筒の中から写真を取り出し、一枚一枚判断し、また新しく、分類群 毎に小箱や封筒に入れていきます。この写真は、カッティングも同時進行のもの。

②分類後。このアルバムは、B群とD群とE群は無かったようです。

③採番後、タグ付けをします。ピンチを使うのは、封筒をリサイクルしたいからです。



④このタグの意味は、『1312番目のアルバムを分類したら、A群とC群のみで、その内のC群の封筒です』、という意味です。予め、タグの書式を作成してコピー使用も便利でしょう。

⑤分類された封筒を、それぞれの作業工程へ。

分類作業について・メモ

最初の段階から、バクテリアの浸食を抑える事を優先させるか、画を残すことを優先させるか、また、どこまで丁寧にするのか、その作業効率とのバランスで、最後までとことん話し合いが行われた作業工程です。

当初、8種類以上の分類数になりそうでしたが、議論及び、作業方法の試行錯誤の結果、5種類に落ち着きました。初めて来たボランティアに、分類説明をした後、なんとなく分類イメージをもってもらえる数と分類方法を探った結果です。作業工程・方法によっては、天候も関わってきますし、工程の所要時間やその管理面、また、作業方法や単位時間あたりの完成写真枚数などは、分類に密接に関わってきています。

特に、よく聞かれるのが、A群を複写しない理由や、C群を水で洗わない理由などです。

一般には、複写をしている現場では、A群は複写していますし、C群は、水で洗浄しています。

確かに、最終的に、PCで検索できるようにするのであれば、一つのアルバムの中できれいに残っているに関わらず、複写していない写真があれば、探す人が探しにくくなるので(A群が一番状態が良いものなので)、複写が必要になってきます。ただ、A群も複写するとなると、その分、作業量が増え、他のアルバムの写真を救う時間が損なわれてしまいます。A群は、きれいに洗浄できるもの、かつ、しっかり乾燥できるものなので、確率的には、バクテリアに再浸食される可能性はかなり低くなると考えます。(バクテリアの専門家には、話は聞けなかったのですが、根拠はありません。)そこで、A群については、再浸食されるとしてもかなりの期間を稼げるので、何か手を打つなら、ご自身でやって頂くことに落ち着きました。あくまで、我々ボランティアは、被災地の方の手助けをするのであり、至れり尽くせりである必要はないとの考えです。

また、C群を水で洗浄しない理由ですが(当初は複写しているので洗って画が消えても仕方がないという方針でした。)、やはり、引き取る方がその写真をみてどう思うか。きれいになっているとはいえ、ほぼ真っ白になっているものをどういう思いで見ると、を基準とし、周りのインクの溶解のみを、失敗が少ないスポンジできれいにし、顔などの主要部分のインクの溶解はドライヤーで強制乾燥して、仕上げとする方向に落ち着きました。

洗浄・乾燥

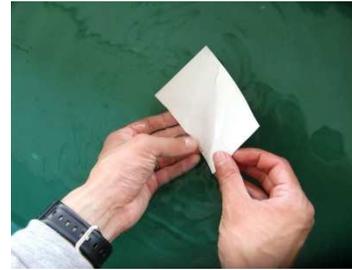
【分類A群の写真は、洗っても主要部分は残るとの判断なので(ただ、人間ですのでミスはあります)、慎重に水に浸しながら、写真表面の溶解したインクを取っていきます。】



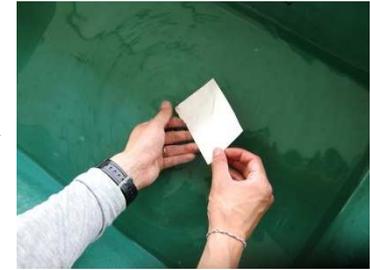
①基本、フネを使用。腰が痛くならない高さで。フネひとつに、すすぎバケツを真ん中において、4人作業がベスト。



②周りからゆっくりと、慎重に様子を見ながら、ぬめりを取っていきます。主要部分も消えそうなら、すぐに終了で。



③裏のテープ糊や、カビ、インクの写りなどもきれいに。結構、台紙が残ったままが多いので、丁寧に。



④洗い終わったら、別のきれいな水で、すすぎをします。バケツ使用が良いでしょう。



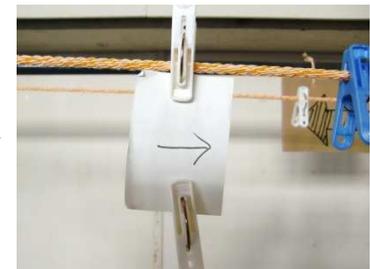
⑤洗浄した写真は、吸水シートでぽんぽんと軽く水分を取ります。



⑥干します。主要部分がピンチにかからないように。乾くと、ピンチ跡が残るので。



⑦分類の時から付いているタグを最初につけます。福地は、右から左へ干しました。



⑧写真を挟み込むように、矢印タグも。一手間かかりますが、タグの付け間違いが減ります。

洗浄・乾燥作業について・メモ

洗浄については、どこの現場でも同じような感じだと思います。福地では、A群は複写をしない為、分類工程でミスがあると、主要部分が消えてしまう大変なミスにつながりますので、最終チェックも兼ねています。

・用意する道具

- ・カッター
- ・はさみ
- ・メモ
- ・小箱(封筒)
- ・洗濯バサミ

- ・合わせて表紙もきれいにする場合

- ・油性マジック
- ・養生テープ
- ・濡れタオル
- ・乾きタオル
- ・歯ブラシ 等

BCD補修

【分類BCD群の写真は、洗うと主要部分が消えてしまう写真ばかりです。なので、複写前のクリーニングを、水を使わずやることとなります。それぞれ、分類群ごとに補修方法が違うので、リーダーは、その分類の判断基準、前後の作業の流れを理解していることが望ましいです。】



①B補修が一番細かい作業なので、その説明を。基本B群は、既に乾いているので、ハケ、歯ブラシなどを使用。



②ハケの次は歯ブラシで、周りからゆっくりと、慎重に。主に泥汚れを落とします。



③次は、乾いた布で。どの過程でも、圧力を加えすぎると、インクが取れてしまいます。布は特に、圧力面が大きいので、気を付けて。



④どうしても、取れない頑固な付着物は、カッターの刃の背で、こそげ落とします。高確率で写真を痛めるので、使いどころが難しいです。



⑤表面が終了したら、裏面を。濡れタオルで、テープ糊や台紙、インク、カビなどをきれいに。



⑥きれいにした表面を机につけたので、もう一度、表面を軽くハケでほこり取り。

★C・D群について

C群とD群は、フィルムを取ると画へのダメージが大きいものです。フィルムがあるため、表面も裏面も濡れタオルでふくだけの処置になりますが、この分類はインクがどろどろの状態のものが多く、圧力に気を付けないと、すぐに、主要部分がインクでつぶれてしまいます。特に、裏面をきれいにする際、机に押し付けない様にしてください。

BCD補修作業について・メモ

洗浄については、どこの現場でも同じような感じだと思います。福地では、A群は複写をしない為、分類工程でミスがあると、主要部分が消えてしまう大変なミスにつながりますので、最終チェックも兼ねています。

・用意する道具

- ・カッター
- ・はさみ
- ・メモ
- ・小箱(封筒)
- ・洗濯バサミ

- ・合わせて表紙もきれいにする場合

- ・油性マジック
- ・養生テープ
- ・濡れタオル
- ・乾きタオル
- ・歯ブラシ 等

Cスポンジ補修

【分類C群の写真は、基本インクが溶けだしており、見た目がとても汚れています。複写後のC補修は、その主要部分は残しながら周りの汚れを落とし、見た目をきれいにするのが目的です。】



①まず、「フィルムがついていたら剥がし」、「水につけた普通のスポンジで、周りから慎重にこすっていきます。なぜ、全部水につけずに、わざわざスポンジを使って作業をするのかを、きっちり理解してもらう必要があります。前にバケツを一つ置いておくと便利。

②主要部分近くや、細かいところは、メラミンスポンジを使います。普通のスポンジと違い、こすろうと圧力をかけても、水分が押し出されにくい為、細かい作業に向きます。また、普通のスポンジだけでは落ちないインク(バクテリアの浸食を逃れた部分)も、落とすことができるので、真っ白にしたい時にも使えます。

③最後に、ドライヤーで強制乾燥で。インクの溶解部分を手で触れてさらさらになるまで、丁寧に。あくまでも、水にぬれた部分を乾燥させるのではなく、手の付けられない主要部分のインクの溶解を乾燥させる為です。乾燥が中途半端だとバクテリアがすぐに復活し、溶解が進みます。やりすぎ注意。

C スポンジ補修作業について・メモ

とにかく、この作業をしてもらうには、どうしてスポンジなのか、どうして、ドライヤーなのかといった根本的な理解が必要になってきます。この工程が、一番誤解を生みやすく、幾度も再説明を強いられました。たとえば、インクの汚れをただ落とせば良いと思われてしまうと、主要部分も全部消されてしまいます。ただ、『乾燥させて下さい』と言うと、水にぬれたところを乾燥させて、それで良しとされてしまいます。説明は、毎回しっかりする事が大切です。

この作業内容に落ち着くには、紆余曲折がありました。一番最初は、水でそのまま洗っていて、ほぼ真っ白になるものもある中、やはりそれでは探しにきた人の気持ちはよくないだろうと、次は、そのまま乾燥させて、そのまま残す方針に変えました。ただ、乾燥させる部分が膨大なので、天日で干していたりもしたのですが、天候に左右されることと、写真なので太陽は良くない事、やはり、インクの汚れがひどく見た目があまりにひどい事などから、インクの汚れを落としつつ、主要部分は残し、かつ、残ったインクの溶解を乾燥させる方法として、最後に、こういったやり方に落ち着きました。ちなみに、作業に慣れた人間であれば、水につけながら主要部分を残す方法もできそうだということで、提案はあったのですが、傷や溶解などではなく、そもそも水につけることができないインクの質の写真も含まれているので、断念しました。

・用意する道具

- ・カッター
- ・はさみ
- ・メモ
- ・小箱(封筒)
- ・洗濯バサミ

- ・合わせて表紙もきれいにする場合

- ・油性マジック
- ・養生テープ
- ・濡れタオル
- ・乾きタオル
- ・歯ブラシ 等

複写

【複写は、今後、ますます状態が悪くなっていく写真の文字通り複写であり、オリジナルよりも画質は劣化するものの、消えていくオリジナルに変わって、印刷・修復など、長期保存用の元データとなります。福地では、写真のサイズに合わせて、A4サイズ以内ならスキャン、それ以上または、額から引きはがせない写真(厚みがあるもの)、アルバム台紙に細かくコメントの記載があり、どんなに汚れていても台紙ごと撮影した方が良いと思われるもの等は、デジカメ一眼レフ・複写仕様を使用しています。(専用の複写機を、借り受けていました)】



PCとスキャナー、外付けのHDDが必要です。L判を4枚取り込んで、クロップ機能があれば、一枚ずつ、保存できます。キャノンの複合機を使用しましたが、設定は、『写真・JPEG、300DPI、マルチクロップ』で、やっていました。

後半は、分類ではなく、複写で詰まり始めました。複写スペースの裏には、各分類の箱に、封筒がたくさん入っています。

複写作業について・メモ

多少、PCが扱える方なら、楽勝です。

・用意する道具

- ・カッター
- ・はさみ
- ・メモ
- ・小箱(封筒)
- ・洗濯バサミ

- ・合わせて表紙もきれいにする場合

- ・油性マジック
- ・養生テープ
- ・濡れタオル
- ・乾きタオル
- ・歯ブラシ 等

合流

【一つのアルバムをそれぞれの工程に分けるのが分類なら、そのそれぞれの工程から仕上がってきた分類群を、再び一つにまとめて一冊のアルバムにするのが合流作業です。】



合流場所の風景です。合流待ちの封筒の数に合わせて、いろいろやり方はありますが、福地では、あとA群が来れば完成の場合、A待ちの箱を作成していました。同じように、B～Eも。



実際に、探してもらっています。封筒の数が増えれば増えるほど、探しにくくなるので、毎日チェックの後、エクセルで数を順番に並べたりリストを作成したこともあります。いろんな工程でのタグの管理ミスが、ここで一気に噴出します。



有能な方は、進んで作業マニュアルも作成してくれます。どこから各分類の作業済みの封筒を持って来て、どこへ持って行くのか、地図つきなので、非常に理解しやすく、説明時間短縮に繋がりました。

合流作業について・メモ

基本的には数合わせで、やることは簡単なのですが、数字を見ていく細かい作業ですので、性格が出ます。人選は慎重に。また、それぞれの作業工程でミスが発生し、時々所属不明の写真が出てきますのが、一通り工程を知っていると、推測しながら、合流することも可能です。展示作業と両方を担当してもらえるとぐっと楽。

・用意する道具

- ・カッター
- ・はさみ
- ・メモ
- ・小箱(封筒)
- ・洗濯バサミ

- ・合わせて表紙もきれいにする場合

- ・油性マジック
- ・養生テープ
- ・濡れタオル
- ・乾きタオル
- ・歯ブラシ 等

展示

【合流から上がってきたひとまとめになった分類群を、探しに来た方が見つけやすいように展示するため、ポケットアルバムに入れていきます。E群や、表紙ありのものは、その旨も記載します。ポケットアルバムは、富士フィルムさんから無償で提供を受けていました。】



E群以外の封筒から、写真を全て取り出し、そのアルバムで一番特徴的な写真を一番最初、窓を作ったポケットに入れます。(福地では、予め、ポケットアルバムの表紙に一枚分の窓を開けていました。)



展示しているところです。探しに来た方が見やすければ、それでよいと思います。



展示風景です。下の箱には、E群が全て入っています。アルバムの写真が見つかった方は、下の箱から同じ番号の封筒を探し、一緒に持って帰る形になります。

展示作業について・メモ

ある意味、全ての工程の最終チェックも兼ねています。できることなら、全作業を熟知した者が、チェックも兼ねて一枚一枚ポケットアルバムに入れていく事をお勧めしますが、そうもいってられないので、合流と併せて、人選は慎重に。

・用意する道具

- ・カッター
- ・はさみ
- ・メモ
- ・小箱(封筒)
- ・洗濯バサミ

- ・合わせて表紙もきれいにする場合

- ・油性マジック
- ・養生テープ
- ・濡れタオル
- ・乾きタオル
- ・歯ブラシ 等